

就労継続支援事業所あむりた 施設概要

- 就労継続支援A型事業
- 障害種別 3障害(知的・身体・精神)
- 定員 20名
- 年齢 25～47歳
- 平均年齢 男性40.3歳、女性26.6歳
- 男女比 7:3 ※全体平均年齢37.1歳
- 時給 831円(京都府最低賃金)

平成29年6月1日現在

「カフェレストランあむりた」 店舗概要



開業日	2011年4月1日
客席数	店内約200席、テラス席30席
営業日	月曜～土曜（日曜、年末年始、大学休校日は休業）
営業時間	9:00～17:00（大学休暇期間は短縮営業）
所在地	京都市中京区西ノ京東柁尾町7

モーニング	9:00～
ランチ	11:00～

“あむりた”
のこだわり

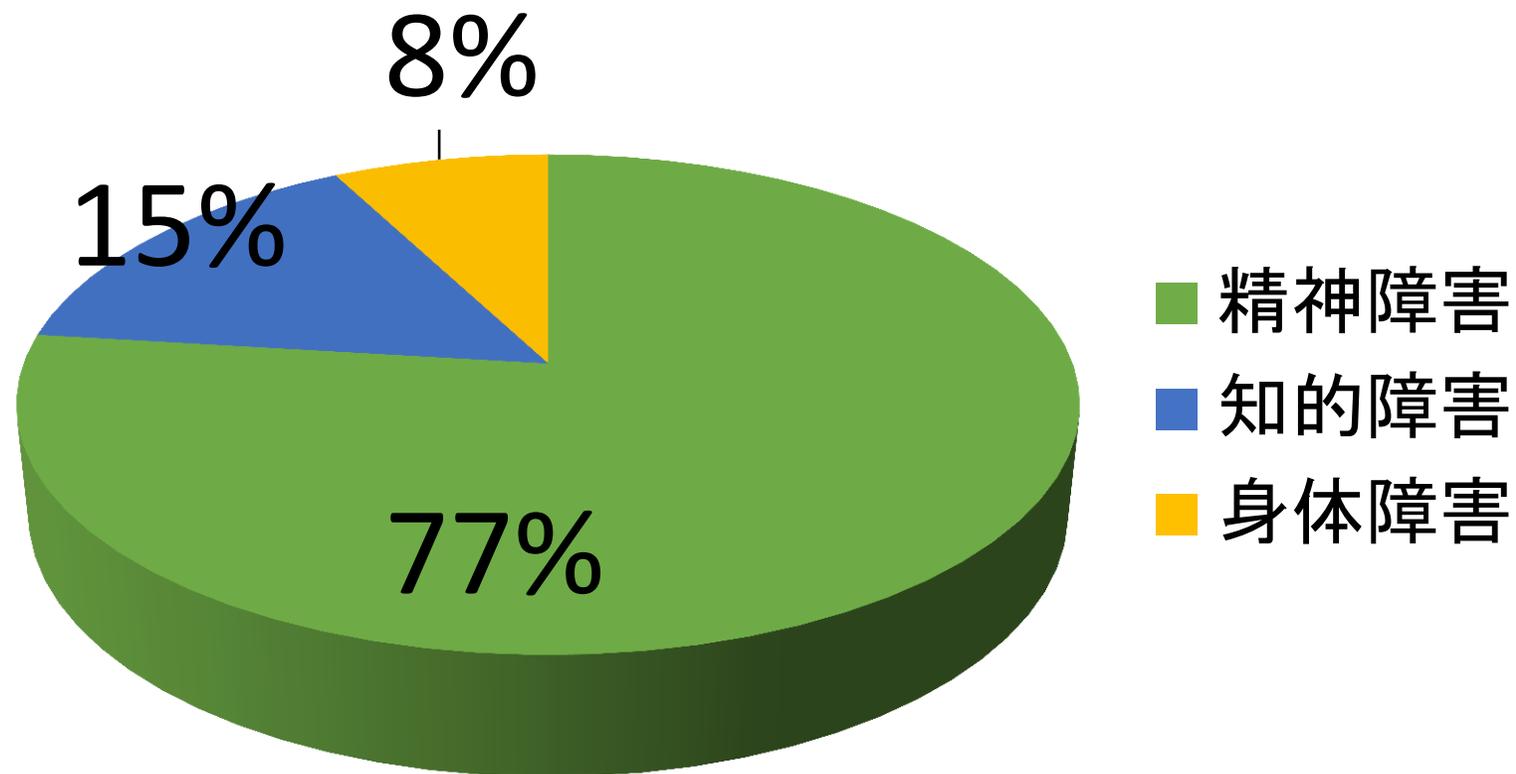
店内手仕込みで
体と心にやさしい料理を提供すること

店内手仕込み



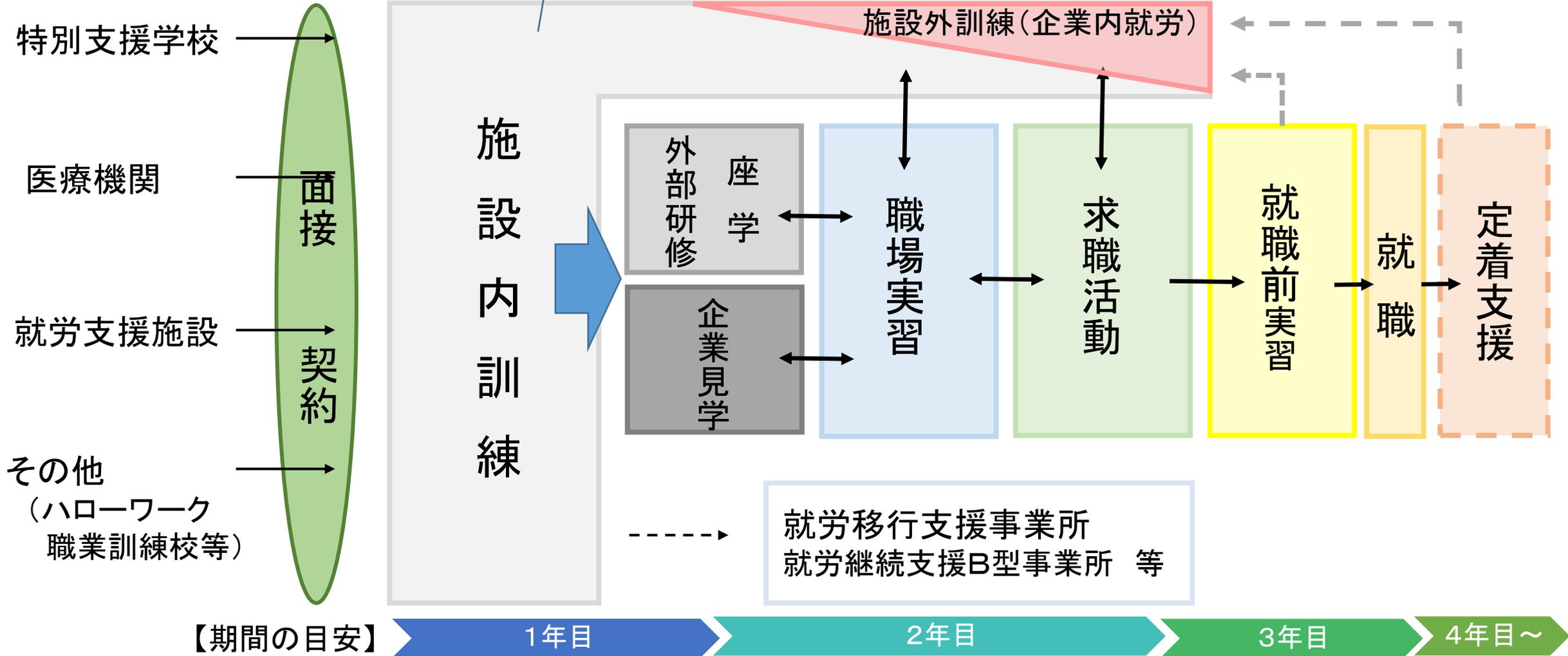
現在の利用状況

主な障害



就労支援の流れ

「カフェレストランあむりた」の運営
その他



一般就労への移行実績

- 平成24年度 1名
- 平成25年度 3名
- 平成26年度 1名
- 平成27年度 2名
- 平成28年度 3名
- 平成29年度 1名(2017年7月1日現在)

「精神障害者の就労」に対する定説

- ✓ 働く＝ストレス なので避けた方がよい
- ✓ 仕事は軽作業・単純作業が望ましい
- ✓ 飲食店勤務は適さない
- ✓ 対人関係が苦手だからサービス業は難しい
- ✓ 週5日勤務はハードル高い

医療の専門家はそう言うが……



仮説を立ててみました

- 「仕事＝ストレス」？ 本当に悪影響でしかなのか
- 軽作業・単純作業だけが果たして適職なのか
- 飲食業でも、体系立てて教えれば十分こなせる仕事
- “いてもいなくても影響のない仕事”では確かに面白くない
- お客さんと接する仕事は手ごたえが掴みやすいのでは
- 「食」という“人を良くする”仕事に携わることには意義がある

学食事業（就継A）で👉を証明しよう

6年間の実績を踏まえて

- ほとんど休まず勤務できた
- 作業効率が向上した
- 再発による退所、中断のケースはゼロ

人に認められ、必要とされることで居場所を見出し、
生きている実感を得ることができる。

仕事があると生活にハリが出て、心身両面で良い点がある！

検証結果

<要因>

- 自分の居場所があり、仕事のやりがい、達成感が得られる
- 対価として最低賃金が保障される

👉 「お客さんの“ありがとう”が嬉しい」

「残さず食べてくれると嬉しい」

👉 「自分の対応が良ければまた来てくれる。

嫌だったら来ない。対人関係の練習になる」

対応するなかで工夫したこと

対利用者

- 勤務後の日報作成
- 日報のチェックを通してコミュニケーションをとる
- 環境に慣れることを優先、仕事の習得はその先
- ほとんどの業務を利用者主体で担当

対関係者

- ご家族と協力関係を構築
- 地域の関係機関との情報共有
- 医療機関との連携

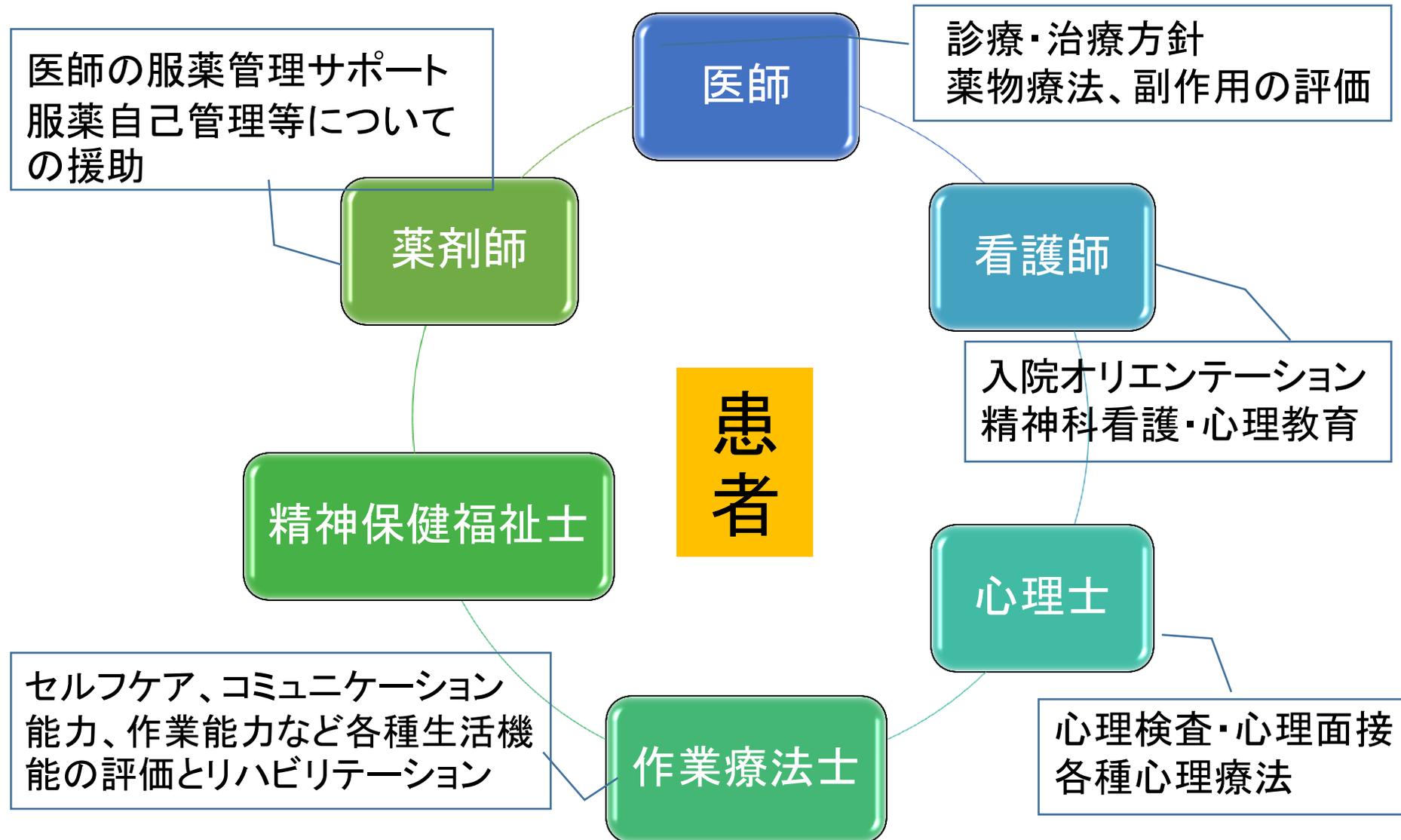
ポイント



精神科病院での経験から

私が学ばせてもらったこと

多職種チームによる精神科医療



訪問チーム

医師



看護師



保健師

受けてきた教育、価値感が異なるメンバー



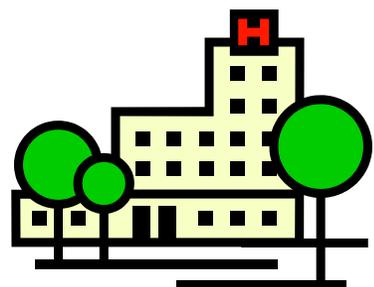
作業療法士



精神保健福祉士

訪問活動

1日の動き



9:30頃出発



病院の車で移動

正午すぎ帰院
13:30頃出発

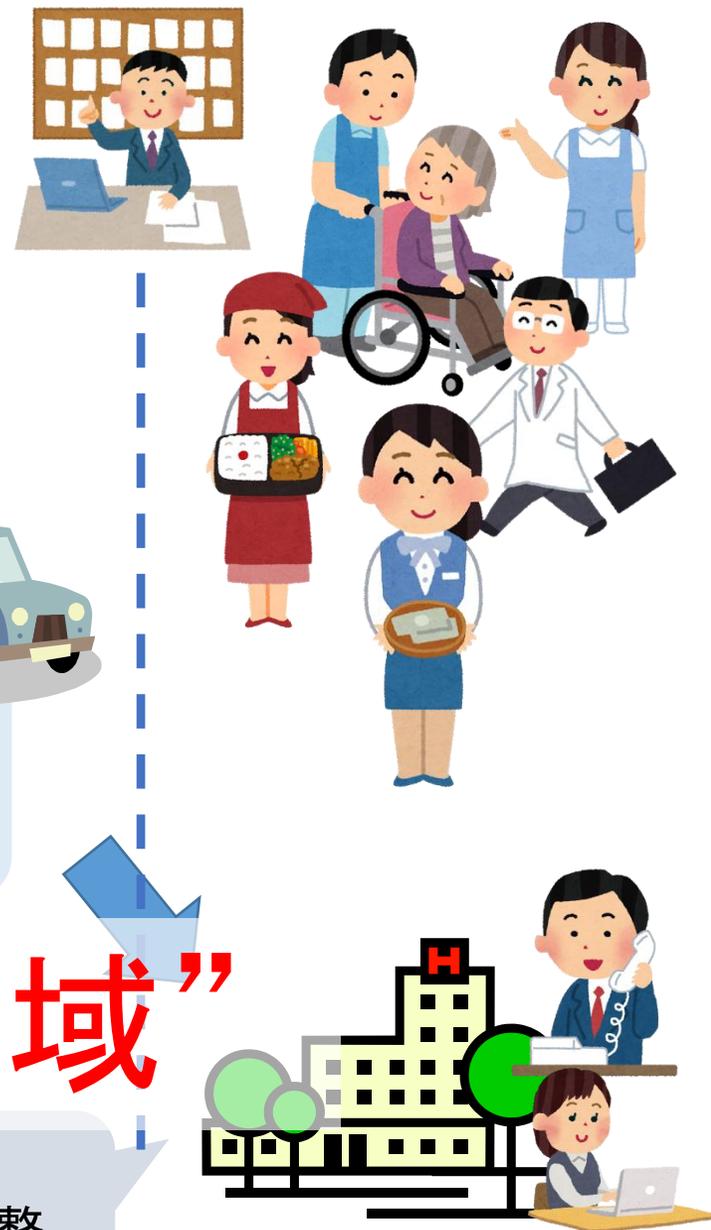
訪問

訪問

活動の拠点は“地域”

報告
連絡・調整
記録

16:30頃帰院



支援の現場で最初に直面した悩み

- チーム医療、連携について授業で習ったけど実践は難しい
- 自分(PSW)の専門性ってどこにある？理解されない感じがする
- 相手の専門性を理解して尊重するって、実際はよくわからない
- チームっていうけど実際はドクターの方針が全て
- 既存のチーム(病棟、デイケア等)との連携がうまくとれなかった
- カンファレンスに参加するけど、何をどう発言していいかわからない
- 自分の役割、期待されている役割がいまいちピンとこない
- 地域の専門機関の方と会う機会があるが何を話せばいいのか

医療従事者が協力して患者さんをケア、支援するのが大切だとはわかるけど・・・

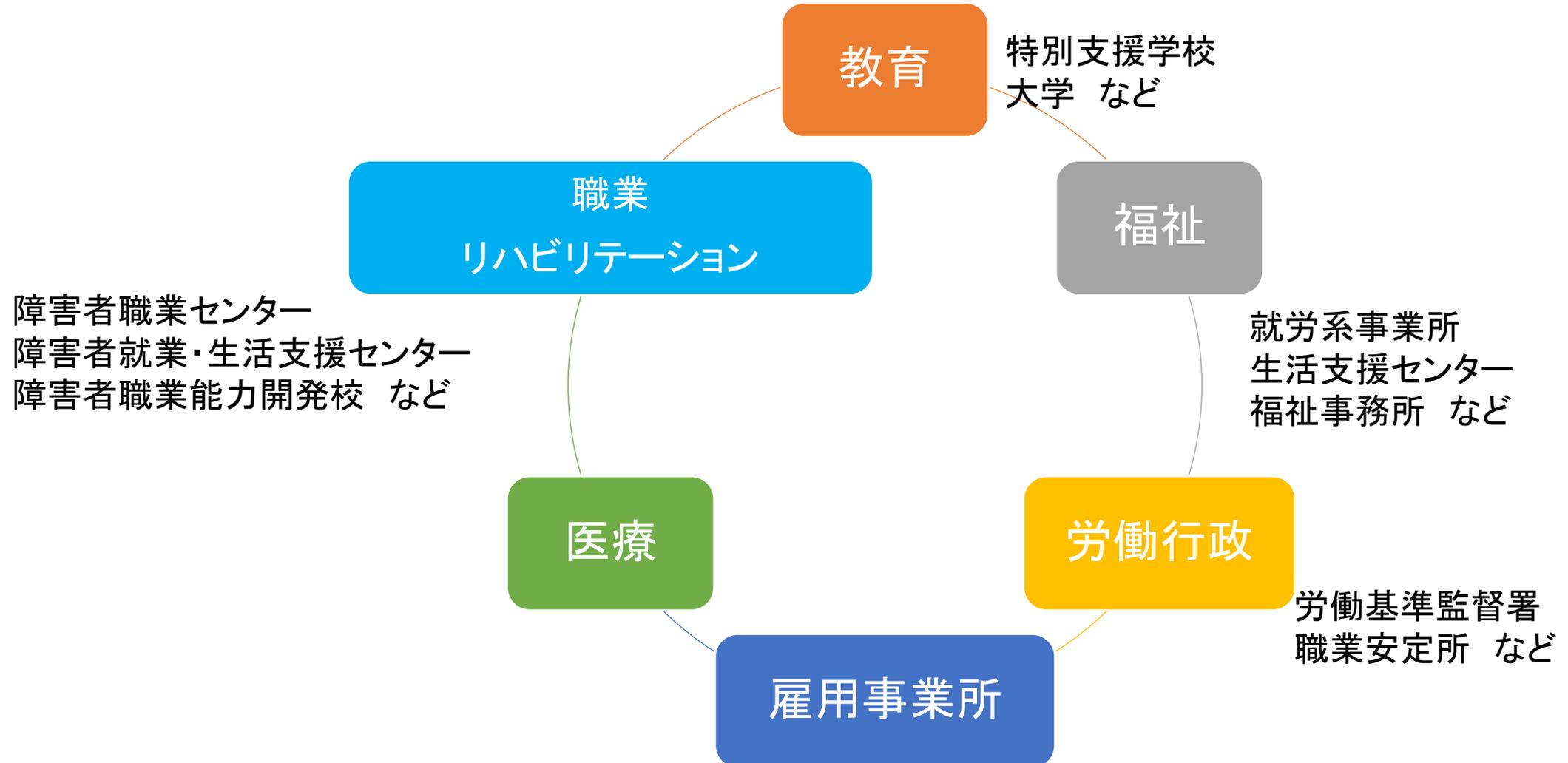
得たもの

- 同じ場面を見ても専門ごとに視点が違う
- アプローチの仕方もそれぞれ
- 一つの視点からでは到底結びつかない効果がある
- 地域に足を運ぶからこそ得られる情報がある
- いろんな人達と出会い、協力関係を築けた感動
- 自分が仕事を通じて地域づくりに役立っている実感



専門性の違いを超えてチームワークがとれると
仕事がおもしろい!!

就労支援に求められるネットワーク



採用前

- ◆ハローワークや就労支援機関からの推薦
- ◆作業体験の奨励
- ◆職業準備性の再評価と結果の共有
- ◆きめ細かい面接でミスマッチを防止
 - ▶ 関係機関との情報共有
(支援の引き継ぎ)



採用開始時

◆ 本人を交えたケア会議の開催

- 支援チームとしての顔合わせ
- 役割分担
- 今後の支援方針の共有



採用後

- ◆ 日ごろの様子や支援の進捗を伝える
- ◆ 変化が見受けられたら早めに連絡を取り合う
- ◆ 支援会議の定期的開催
- ◆ 医療機関、支援機関、家族との連携
(生活面、医療面のサポートを要請)

これまで心がけてきたこと

- 開かれた事業所運営
- 地域が支援活動のフィールド
- 足を運ぶ努力を惜しまない
- プロとしての意識をもつ



ネットワークのメリット

- 一人の単独支援では難しいことでも、他機関の協力が得られれば実現可能になることも（お互いの専門性がいかされる）
- 顔の見える関係ができる
- 心の燃え尽きが防げる
- 自分の成長につながる



連携に大切なこと

1. 日ごろのコミュニケーションで信頼関係を築く努力をする
2. 互いを尊重し対等性・平等性を守ること
3. 相手の得手不得手を理解する
4. お互いに理解しやすい共通言語をつかう
5. 情報を共有する
6. 支援の目標、役割分担を明確にする
7. 相互に協力しあってチームに貢献する



社会福祉に携わる者としてのプロ意識

連携を促進するには・・・

“利用者の幸福のために”を合言葉に

チームにおいて、自分は何にができるかをはっきりさせること。

この行為、この姿勢こそが、連携をスムーズに運ぶために一番必要な促進要因である「信頼」を生み出す。

誰のためのネットワークかを忘れずに・・・

連携は一朝一夕にはできないけれど
熱意は必ず伝わる

- 誰かが利用者のためにはじめなければならないこと
- その覚悟があれば熱意は伝わり、熱意により具現化された連携の輪が広がる
- 地域に暮らす人々の生活を理解して、地域に必要なサービスや支援を提供する運動体を作り出し、利用者の幸福、地域の発展に貢献できるところに連携の醍醐味がある！